

ホーム > 聖書を知る > 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 01

## 聖書を知る



- [聖書とは](#)
- [聖書翻訳の研究](#)
- [聖書ができるまで](#)
- [聖書翻訳の歴史](#)
- [口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について](#)
- [新翻訳事業について](#)

### 新翻訳事業について



## 日本聖書協会 講演会

# 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—



石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

本日は、目下、日本聖書協会で進めております聖書の新しい翻訳について、皆様のご理解をいただきたく、翻訳者また編集委員という立場からお話をさせていただきます。

## I. 問題の定義：なぜ新しい翻訳を出すのか？

先日、ある教会の少々年配の女性の方に、「聖書の新しい翻訳がまた出るようですね」と話しましたら、「えっ？ また新しい翻訳を出すんですか？！」と驚いていらっしゃいました。「私はずっと、口語訳聖書に親しんできたんです。でも、ついこの前だと思うのですが、新共同訳聖書が出て、教会でも取り入れ、私もやっと慣れてきた——というのに、また新しい翻訳が出るんですか？！」と戸惑ったご様子です。

新しい聖書翻訳が準備されていると聞いたときに、「せっかく『新共同訳聖書』にも慣ってきたのに、また新しい訳が出るのか」——このような感想を持たれる方も多いのではないでしょうか。そのように感じられるのも、ごもっともだと思います。

ご年配の方は、「新共同訳は、つい最近出た」というふうに思っていらっしゃるかもしれません。しかし、実は、新共同訳聖書が出てからすでに27年も経っています。

「そうか、新共同訳は出版されて25年以上も経ったのか。やはりもう古臭くて、読むに耐えないのか。」

いえいえ、そういうわけでもありません。もちろん、海外のものも含めて、どんな聖書の訳でも完全、完璧というものはありませんから、新共同訳も完全ではありません。しかし、慌てて抜本的に修正しなければいけないような致命的な欠陥がある、というわけでもありません。新共同訳は立派な訳です。確かに「欠点」はありますけれども、それは他の聖書訳も同じです。まだなお読むに耐えるもので、古臭くなってしまったわけではありません。

「なんだ、それなら、わざわざ苦労して新しい訳を出さなくてもよいではないか」ということになるかもしれません。

しかし、新しい訳を出さないということも、これはこれでまた問題です。新しい訳を30年も出さずに放つておきますと、「聖書協会も聖書学者も怠慢だ、何をしているんだ」とお叱りを受けてしまいます。

「聖書の翻訳というものは、ずっと長いあいだ大切にすべきで、頻繁に訳し直すようなものではない」と感じる一方で、「聖書学も、日進月歩、進歩しているはずなので、聖書も何年か経ったらやはり新しい訳を出したほうがいい」と思うのも、私たちの普通の感覚ではないでしょうか。

私たちの一般的な感覚をもとに考えますと、新しい訳を出すべきなのか、出す必要がないのか、なかなか判断がつきません。

日本聖書協会は、新しい翻訳を企画し、目下、鋭意、準備を進めております。しかしながら、私たちは立ち止まって問いたいような気もします。「一体どうして新しい訳を出すのでしょうか？」。

何も、白黒はつきり分けられるような、整然とした論理的な理由があるわけではないでしょう。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3562-7227 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム	聖書を読む	聖書を知る	聖書のお求め	献金する	聖書協会とは	聖書図書館
-----	-------	-------	--------	------	--------	-------

ホーム > 聖書を知る > 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために— 02

## 聖書を知る



- 聖書とは
- 聖書翻訳の研究
- 聖書ができるまで
- 聖書翻訳の歴史
- 口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について
- 新翻訳事業について

### 新翻訳事業について

## 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために—



石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

公けの見解としては、次のような理由が挙げられています。

#### 1)新共同訳の出版から、ある程度の時間が経過した。

聖書協会による過去の日本語訳聖書の刊行を見ますと、『明治元訳』(1887年)、『大正改訳』(1917年)、『口語訳』(1955年)、『新共同訳』(1987年)と、ほぼ30年おきに改訂版あるいは新訳が出されてきています。『新共同訳』の出版の30年後といいますと、2017年です。ですから、『新共同訳』後の新しい訳がそろそろ欲しい時期に差し掛かっているわけです。

#### 2)聖書学、翻訳学など学問研究の進展。日本語や日本社会の変化。

聖書学は日々動いています。翻訳の底本となるテクストの改訂もなされました。日本語や日本社会の変化もありました。様々な局面において聖書の言葉をめぐる変化があったのです。聖書を提供する側としては、これから聖書を読んでいく若い世代の感覚も無視するわけにはいきません。

#### 3)『新共同訳聖書』見直しの要請。

『新共同訳』に対しては、「カトリックとプロテスタントが共同で翻訳した一つの聖書を両教派で使用できるようになった」という点に対する評価が高いです。その一方で、欠点の指摘もあります。全巻にわたる訳語の不統一性、訳文の精度のムラなどが指摘され、敬語表現に対しても不満が表明されています。これらの問題点を改善するためにも、新しい訳が必要となっていました。

(渡部信「日本における聖書翻訳の歩み」(上智大学キリスト教文化研究所編『日本における聖書翻訳の歩み』2013年、所収)64頁)

しかし、新しい訳を出す理由は、以上の点だけではありません。今述べた理由よりももっと根本的なところで、実は、翻訳はあくまでも翻訳である以上、定期的に訳し直さなければならないものなのです。翻訳されたテクストは、譬えて言えば畑のようなものです。人は最初は畑として耕し、石や雑草などを取り除きます。しかし、次第に人はそこを畑と思わず、石も雑草もない整った土地なので、そこを歩くようになります。いつの間にかその畑は道になり、表面の土が固まってしまう——そのような感じでしょうか。

多くの人たちが何度も何度も一つの聖書翻訳を読んでいますと、その翻訳の表面が踏まれ、踏まれて、滑るほどに固くなる。読み慣れてしまつて、さつと読めてしまうようになる。実は、翻訳テクストという地面の下が大事なのに、翻訳テクストはどこか別のところへ行く通り道になつてしまうのです。

新しく翻訳するということは、その固くなつてしまつた地面を耕すことです。

いくらすぐれた翻訳でも、そのまま放っておいてはいけない。たとえ優れた翻訳があつたとしても、時間が経てば必ず新しい翻訳を出さなければならぬのです。定期的に耕さなければならぬ。

新しい聖書翻訳を出すということは、前の訳を否定することではありません。もちろん何らかの改善をしていくわけですけれども、前の訳を否定したり、凌駕したりするわけではありません。口語訳聖書が文語訳聖書を否定したのではない。新共同訳聖書が口語訳聖書を克服したわけでもないのです。

みんなが歩いて固くなつてしまつた、そして通り道のようになつてしまつた畠を、改めて畠として耕し、土をほぐし、柔らかくする——それが、新しく聖書を翻訳する、ということに他なりません。



■このページに関するお問合せは

**一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部**

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3562-7227 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホームページ &gt; 聖書を知る &gt; 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 03

## 聖書を知る



聖書とは

聖書翻訳の研究

聖書ができるまで

聖書翻訳の歴史

口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について

新翻訳事業について

## 新翻訳事業について

日本聖書協会 講演会  
聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—

石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

## II. 聖書を耕す

「聖書の翻訳とは聖書を耕すことだ」——このことをもう少し詳しく説明させていただきます。

「翻訳」について「うんぬん」語る前に、まず、言葉の「意味」についてご一緒に考えてみたいと思います。

今しばらく、ご一緒に「文の意味」について考えていきますが、考察の対象について急いで申し添えておきます。考察の対象は、論文や新聞の社会面などの情報系の文章ではなく、小説や詩のような文学、および隠喩や象徴に満ちた宗教的な文書です。

私たちは一般に、言葉の中に意味が隠れていると考えているむきがあります。小説を読むと、その意味や内容は何か、と探ろうとします。詩を読むことは少ないと思いますが、詩を読むと、意味がわからぬ、というように、「意味」を知ろうとして分からなくなります。テクストの中に、内容としてカチッと固まった意味があると思い、それを私たちは掘り出そうとします。

また、私たちは一般に、言葉とその言葉が指示するものとは決まった関係で固定されていると考えています。「机」と言えば机を指し、「講演」と言えば今行われているような講演を表す。言葉とその言葉が指示するものとは、しっかりと結びついていると考えます。ある言葉が何を指示しているか、何を意味しているか、分からないときは、辞書を引きます。ある言葉の意味は、優れた権威ある辞書の中に書かれてある、というふうに考えます。

しかし、本当にそうでしょうか。

次の例を考えてみてください。

「あんたなんか、大嫌い」というセリフが小説の中に出でてきたとします。

ここでの「嫌い」の意味は何でしょうか。辞書で調べてみると、こうあります。

## きらい【嫌い】

①きらうこと。忌みはばかること。「うそつきは—だ」「—な食べ物」

- ②(「…の—がある」「…する—がある」の形で)(好ましくない)傾向。懸念。「凝り過ぎる—がある」  
③(「…の—なく」の形で)区別。平治物語(金刀比羅本)「上下の—なく命の助かることを得ず」  
(『広辞苑』第5版から)



■このページに関するお問合せは

**一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部**

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

[ページの先頭に戻る ▲](#)

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society. All rights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム	聖書を読む	聖書を知る	聖書のお求め	献金する	聖書協会とは	聖書図書館
-----	-------	-------	--------	------	--------	-------

ホーム > 聖書を知る > 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 04

## 聖書を知る



- 聖書とは
- 聖書翻訳の研究
- 聖書ができるまで
- 聖書翻訳の歴史
- 口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について
- 新翻訳事業について

### 新翻訳事業について

## 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—



石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

しかし、「あんたなんか、大嫌い」というセリフの中の「嫌い」の意味は、この辞書にある意味とは違うのではないか、と思われます。ここでは、「嫌い」という意味ではなく、むしろ、まったく逆の「大好きだ」という意味であるのかもしれません。辞書にはない意味ですね。このような、辞書にない特殊な意味は、このセリフが小説の中に埋め込まれてあるだけでは出てきません。読者がいなければ、読者がこのセリフを読まなければ、このような意味は出てこないです。誰にも読まれなければ、このセリフは永遠に生きてこないです。小説の中で、文字の中で、死んだままです。

もちろん、このセリフだけではその意味ははつきりしません。文脈がどうであるかによって意味はいろいろ変わってきます。しかし、基本的には、言葉の意味というものは、読者がなければ出てこない。生まれない。意味というものは、テクストと読者との出会いによって生まれてくるものだと言えます。文脈というのは、言葉の意味を限定する働きというよりは、テクストと読者とが出会いやすくする働きを持っていると言ったほうがいいのではないでしょうか。

「あんたなんか、大嫌い」というセリフを小学一年生あたりが読めば、素直に、文字通り、「本当に嫌いなんだな」と理解するかもしれません。しかし、大人が読めば、これは大好きだということを表現していると理解できます。もちろん、大人でも、その理解の仕方は一様ではないでしょう。厳密に言えば、人それぞれで、このセリフの「嫌い」をどう理解するかは異なってくるだろうと考えられます。テクストと読者とはどのように出会うのか、その出会い方によって、意味は変わり、理解は変わってくるのです。

テクストの意味は、テクストの中にあらかじめ入っているのではなく、テクストと読者との出会いによって生まれて来るものです。読者が変われば、出会いのあり方も変わり、理解も変わり、意味も変わります。また、同じ人が読むにしても、読むごとにテクストとの出会いは変わってきます。そして、その都度、新しい意味が生まれてくるのです。

聖書の中に「あんたなんか、大嫌い」というセリフがあるわけではありませんが、他のセリフ、他の言葉ですけれども、このセリフと同じように、読者との出会いを待ち、新しく生まれたがっている言葉が聖書には満ち満ちている、と言うことができます。聖書の言葉は文字として死んだままでとどまりたがっているのではなく、読者に読まれ、読者の内で生きようとしています。

ですから、聖書を読む者は、読むごとに新たに聖書の言葉と出会い、読むごとに聖書の理解も異なるてくる、と言えるのです。

ところが、聖書も読み慣れてしましますと、一方では、読み慣れるということは勿論いいことなのですが、他方で、新鮮な出会いがなくなってしまう恐れもあります。テクストと出会う・言葉と出会うためには、横のほうに滑っていくのではなく——聖書を速読して全体の流れを掴むということも大事ですが——横に滑るのではなく、縦に読み込む、掘り込む、比喩的に言えば、テクストの上に立ち止まって、その下の固くなってしまった表面を耕す必要があるのです。固くなったテクストを耕して、改めて、意味の創出を待つ。そして、新しく立ち現れた意味を吟味する・味わい直す必要があるのです。

テクストを耕す必要がある。でも、翻訳されたものの上では、耕すのは不徹底にならざるをえません。翻訳されたものは表面が固い。翻訳されたものを耕す場合、他のいろいろな日本語訳、外国語訳などを参考にして耕すことになりますが、やはり不十分です。十分に耕すためには、どうしても原文に戻る必要があります。ここに、新しい翻訳の出番があります。原文に戻り、訳を検討しながら翻訳し直すことでき聖書を耕すわけです。踏みならされ固くなってしまった翻訳の表面の土を耕し、土に空気を入れ、土を柔らかくし、豊かな土壤にします。

ですから、聖書を新たに翻訳するということは、聖書を耕すことなのです。耕された豊かな土壤からは、さまざまな植物が生え、いろいろな色の花を咲かせる可能性があります。読者との出会いによって新たな聖書世界が広がります。新たに耕された翻訳テクストによって、読者は聖書と新たに出会うことができる、というわけです。



■このページに関するお問合せは

**一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部**

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム	聖書を読む	聖書を知る	聖書のお求め	献金する	聖書協会とは	聖書図書館
-----	-------	-------	--------	------	--------	-------

ホーム > 聖書を知る > 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 05

## 聖書を知る



- 聖書とは
- 聖書翻訳の研究
- 聖書ができるまで
- 聖書翻訳の歴史
- 口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳について
- 新翻訳事業について

### 新翻訳事業について



## 日本聖書協会 講演会

# 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—



石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

## III. 新訳の目標、実際の作業から

さて、聖書の翻訳は定期的にしていくなければならないのだということをご理解いただけたかと思います。

それで、日本聖書協会では、新しい聖書の翻訳を企画することになりました。2010年から新しい翻訳の作業を開始したわけです。

翻訳の作業で大事なことは方針です。どんなプロジェクトでも方針・向かう目標は大事なのですが、翻訳の作業でも同じです。何の方針もなく、翻訳者を集めて、「さあ、とにかく、訳してください」と言うだけでは、聖書の翻訳は出発することはできません。方針・目標を決めなければなりません。

今回の翻訳事業では、次のことを目標にしました——新しい翻訳聖書は「カトリックとプロテスタント教会の礼拝、礼典において教職者と信徒が、聖書を『信仰の書』として読むため」のものである。

新共同訳聖書も、カトリックとプロテスタント両教派での使用を前提とした共同の翻訳でした。ところが、「もちろん教会で使うけれども、一般の人たちも理解できる」ということを当初目標にし、その後、教会での使用を優先するという方針に変更しましたので、目標が曖昧になり、その結果、翻訳方針にも混乱が生じてしまったようなのです。

このことを反省して、新翻訳事業では、はじめからこれを大きな目標として掲げたのです。「カトリックとプロテスタント教会の礼拝、礼典において教職者と信徒が、聖書を『信仰の書』として読むため」。

この目標については、ご批判もあるかと思います。これは「内向き」ではないか。教会の礼拝・礼典にだけ目をやり、聖書を「信仰の書」として捉えるのは、教会の外への配慮がなさすぎるのではないか。

そのようなご批判もあるかと思います。しかし、新翻訳事業の目標が「教会の礼拝、礼典において、教職者と信徒が、聖書を『信仰の書』として読む」ためというものであっても、このことは、「聖書が一般の人々に読まれる」ということを排除するものではありません。いろいろな聖書の訳があつていい。岩波の訳もあつていいし、個人訳もあつていい。それぞれが排除しあうのではなく、異なる役割を持てばいいのではないかと考えます。「教会のことを考えるのは内向きだ、けしからん」ということで、すべてが一般の人たちの教養に仕える翻訳、学問・研究に仕える翻訳ばかりになってしまいますと、教会が困ります。教会のための聖書もなければいけない。いや、教会がもっとも聖書を読み、用いるのですから、日

本聖書協会としては、やはりまず、最も求めの多い教会向けの聖書を作らなければならない——これは当然だろうと思います。何も、閉ざされているわけではない。開かれています。教会だけで通じるような用語はもちろん避けなければなりません。一般の人たちも読めるようにするのは当然です。しかし、礼拝・礼典で用いられることが主であり、「信仰の書」として読まれることを大きな目標にする必要があるのです。



■このページに関するお問合せは

**一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部**

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホームページ &gt; 聖書を知る &gt; 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために— 06

## 聖書を知る



聖書とは

聖書翻訳の研究

聖書ができるまで

聖書翻訳の歴史

口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について

新翻訳事業について

## 新翻訳事業について

日本聖書協会 講演会  
聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために—

石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

新共同訳と新しい翻訳聖書では方針に若干の差異がありますので、そのことが訳語を選ぶ際にも影響を与えてきます。新共同訳は当初、聖書が一般の人たちに広まることを優先したようですから、「分かりやすさ」を主に追求した部分が残っていると思います。一般向きの翻訳ですと、やはり表現が親切なものになります。ときに、親切すぎることもあります。訳が説明的になるのです。

この表をご覧ください。

## ■訳語の比較

ヘブライ語	箇所	文語訳	口語訳	新共同訳	新訳(仮)
ツェダカー	詩5:9	義	義	恵みの御業	義
ツアディーク	詩7:10	義人	正しき者	あなたに従う者	義人
ラーシャー	詩1:1	悪しきもの	悪しき者	神に逆らう者	悪人
ハーシード	詩116:15	聖徒	聖徒	主の慈しみに 生きる人	信仰ある人(?) 忠実な人(?)

分かりやすい例を集めました。これまでの日本語訳の訳語を比較したものです。

ヘブライ語で、ツェダカーは、文語訳、口語訳は「義」と訳してきたのですが、新共同訳では、「恵みの御業」となりました。新しい訳では、元に戻して「義」となるだろうと思います。

ツアディークは、文語訳「義人」、口語訳「正しき者」、新共同訳「あなたに従う者」、新訳ではたぶん「義人」となるでしょう。

ラーシャーは、文語訳「悪しきもの」、口語訳「悪しき者」、新共同訳「神に逆らう者」、新しい訳では「悪人」となる可能性が高いです。

ハーシードは、文語訳「聖徒」、口語訳「聖徒」、新共同訳「神の慈しみに生きる人」、新しい訳では、まだ検討中ですが、「信仰ある人」とか「忠実な人」という案が出ています。

ここで申し添えておきたいことが2つあります。1つは、今回の翻訳事業では、これまでの邦語訳聖書の中で「目標」にかなう訳があるならば、古い訳に戻ることもはばからないということです。2つ目は、1つの原語に対して1つの訳語でかならずしも統一しないということです。例えば、ハーシードを「信仰ある人」ないし「忠実な人」のどちらかに決めてしまって固定する、例外も認めない——というようなことはしません。ゆるやかに統一するということです。訳語をどれにしようか迷うくらいなら、提案されている訳語にすればいい。しかし、文脈上、ここはぜひ別の訳語を使う必要があるというのであれば、別の訳が認められるはずです。

以上の例からも分かるように、新共同訳は説明的すぎるという印象を受けます。説明的ということによって、次の3つの問題点が出てきます。

- 1) 訳語を説明的なものにしますと、一般の人たちには分かりやすくなると思いますが、礼拝・礼典で使いづらくなります。日本語としてのリズム・調子が悪くなります。
- 2) 先程、意味というのは、テクストと読者との出会いから生じてくる、と申しました。説明的な訳には、この出会いのチャンスをなくすという欠点があります。出会いを待たず、翻訳の段階で意味を限定して、親切にも提供してしまっています。ツエダカーは「恵みの業」という意味でも間違いではありませんが、しかし、もっと広い多彩な意味をもたらすはずなのです。その意味の広がりの芽を摘んでいる。言葉を狭い意味に限定してしまっています。
- 3) これと似たことですが、説明的な表現は、意味は分かりやすいのですが、表現に面白味がない。先程の「あんたなんか、大嫌い」の例に戻れば、これは、「大好き」の意味だから、「大好き」と訳しておこうというようなものです。この場合の「大嫌い」は複雑な意味合いを含むわけで、大いに関心を持っているのに「大嫌い」と表現するところに、セリフの面白さ・意味の深みが出て来るので。これを説明してしまっては味気がないです。意味というものは読者自身がそれに出会わなければならないものなのです。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホームページ &gt; 聖書を知る &gt; 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 07

## 聖書を知る

[聖書とは](#)[聖書翻訳の研究](#)[聖書ができるまで](#)[聖書翻訳の歴史](#)[口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について](#)[新翻訳事業について](#)

## 新翻訳事業について

日本聖書協会 講演会  
聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—

石川 立氏

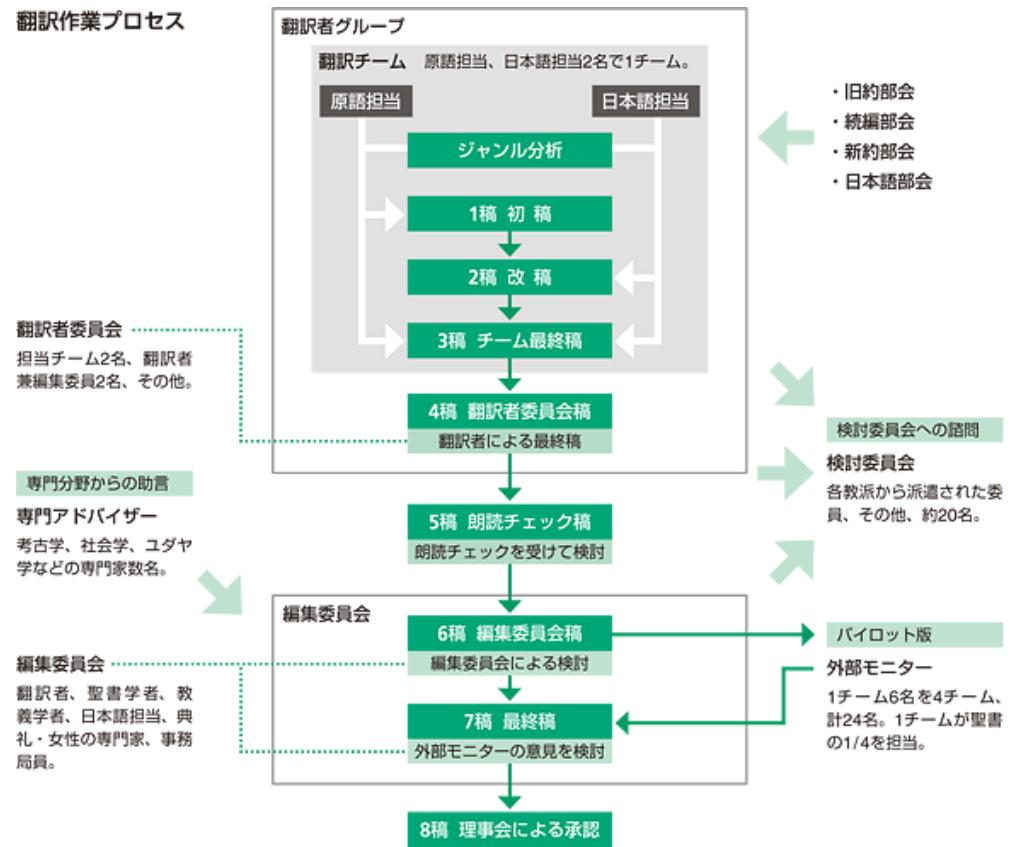
2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

## 翻訳の作業

ここで、具体的な翻訳の作業をご紹介したいと思います。

まず、全体の概念図をご覧ください。



聖書の翻訳作業は、まずは翻訳チームから始まります。翻訳チームは、原語担当翻訳者と日本語担当翻訳者が2人1組で構成します。原語担当者と日本語担当者が最初からチームを組むというのは、新共同訳のプロジェクトにはなかったことのようです。このチームで、4稿まで進みます。まず、原語担当者が底本から翻訳をします。これが第1稿。次に、日本語担当者が、第1稿の訳を翻訳方針に沿って修正します。これが、第2稿。さらに、原語担当者と日本語担当者は、第2稿を共同で検討し、第3稿を作成します。

次に、該当する書を担当した翻訳者チームの2名、翻訳者兼編集委員2名、そして、聖書協会のスタッフが加わり、「翻訳者委員会」を構成します。翻訳者委員会は第3稿を検討・改訂して第4稿を完成させます。この第4稿というのは、翻訳者が翻訳方針に沿い、共同で訳文を完成させた最終案です。この時点で、翻訳者によるすべての作業は終了です。この後、翻訳者以外の人たちが訳文を朗読して同音異義語などを洗い出す朗読チェックが入って第5稿となります。

次に、「編集委員会」による検討が行われます。これが第6稿にむけての作業です。翻訳者のほかに、様々な分野の専門家、聖書神学、教義学、翻訳学、日本語、典礼、女性学等の専門家が編集委員会を構成し、専門的な見地から第5稿を検討して、訳文に問題がある場合などには改訂します。これが第6稿です。

第6稿のパイロット版を書ごとに作成して外部モニターに配布し、第6稿の訳文に関してフィードバックをしていただく。編集委員会はこのフィードバックを受け、訳文を調整します。これが編集委員会による最終稿となります。これが第7稿。

次に序文や用語解説などを執筆し、聖書協会のスタッフによる調整を経て、最終調整となります。訳文は理事会に提出され承認を受けます。第8稿です。その後、印刷に向けて作業が開始するという具合です。

翻訳の全過程は、簡単に言えば、以上のようにになります。

ところで、この概念図にあるのは最低限の活動で、翻訳に関わる者は翻訳事業のあいだ学び続けます。外部の講師による講演や、互いに発表もし合ったりもします。また、合宿の際に交わりの時を

持ちます。このように、学びつつ、硬直しがちな頭を軟らかくします。耕すのはテクストだけではなく、私たちの頭も耕しながら進んでいきます。

## 「パン（レヘム、アルトス）」は「ご飯」か？

翻訳事業に関わる者全体が参加する全体会議も行われました。その際、海外で長く聖書学、言語学を研究されてきた村岡崇光先生のご講演を聞く機会がありました。そのご講演の中で、一つ、大事な問題提起がなされましたので、ここで、そのことに簡単に触れておきたいと思います。

そのご講演の中で村岡先生は、ふつう「パン」と訳されている言葉は、日本語にする場合は、「ご飯」と訳すべきではないか、という提案をされました。「パン」と訳されるのは、ヘブライ語ではレヘム、ギリシア語ではアルトスと言いますが、それは確かに、イスラエルの人たちにとっては、日本人にとって「ご飯」に相当するような役割を持っています。生活の糧や、心の糧、生活や精神や人生を支える糧という、きわめて重要な意味合いを持つています。

村岡先生のご提案は確かに重要なことを示しています。「パン」では、日本人にはあまり切実な感じがない。「パン」が切れていても、あまり困らない。だから、日本人に対しては、「パン」より「ご飯」のほうが、原文の意味合いをよく伝えるのではないか。確かにそうです。皆様はどう思われますか。

しかしながら、もう少し慎重に考えてみなければなりません。意味は出会いによって生まれると申しました。一人の日本人がレヘム、アルトスという言葉を読む。言葉と読者が出会って「ご飯」という意味が発生する——これはいいでしょう。しかし、そこで発生した意味を訳語にしてしまうのは、いかがでしょうか。発生してきた意味を訳語にすると、言葉との出会いが今度は、また次の次元で起こることになります。今度は「ご飯」という訳語を日本人が読んで、そこで新たな意味が発生してきます。「ご飯」という言葉は日本人にはあまりに豊か過ぎて、「パン」の「訳語」にするにはふさわしくないように思われます。別の文化的な意味を産み出すのです。家庭とか、故郷とか、おふくろの味とか、味噌汁とか漬物とか、そういう、「パン」とは違う意味を発生してしまうのです。

意味は出会いによって生じてきます。しかし、その出会いの結果を訳にするのは、いかがでしょうか。個人訳ならそれでいいでしょう。個人訳なら、むしろ良い訳になるかもしれません。しかしながら、聖書が礼拝や礼典で使われるという目標を持ったこの翻訳事業ではどうでしょうか。訳は出会いを記述したり、その結果を発表したりするのではなく、出会いを演出するものです。答えを出してしまってはいけないのです。



### ■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホームページ &gt; 聖書を知る &gt; 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために— 08

## 聖書を知る



聖書とは

聖書翻訳の研究

聖書ができるまで

聖書翻訳の歴史

口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について

新翻訳事業について

## 新翻訳事業について

日本聖書協会 講演会  
聖書を耕す—聖書との新たな出会いのために—

石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

## 「人の子ら」か「アダムの子ら」か?

訳語を選ぶのは、難しいですけれども、なかなか興味深いことです。苦しいけれども、喜びもまたあります。

この講演の最後に、一つ、訳語の検討の例を取り上げてみたいと思います。詩編の訳として興味深い訳が翻訳者委員会のほうに上がってきましたので、訳語検討の一例としてご紹介したいと思います。これを皆様も一緒に考えていただければ幸いです。

詩編90編3節なのですが、新共同訳ですと、こうなっています。

あなたは人を塵に返し、  
「人の子よ、帰れ」と仰せになります。

この箇所の新しい訳が翻訳者委員会に上がってきたのですが、その訳は次のようにでした。

「アダムの子らよ、帰れ」とあなたは言い  
人を塵に返らせる。

ここでは、新共同訳で神が「人の子よ」と呼びかけているのに対して、新しい訳では「アダムの子らよ」と呼びかけている点が大きく異なっています。

しかし、新翻訳事業では、「アダム」という言葉は、個人を指していることがはっきりしている場合以外は、一般的な意味なので、「人」と訳しましょうという合意がだいたいなされています。しかも、この訳は、まだまだ第8稿まで多くの方々の目をぐりぬけなければなりません。ですから、最終的には「アダムの子らよ」ではなく、「人の子よ」という訳に落ち着くかもしれません。

私個人としては、翻訳者委員会に上がってきたこの訳のほうがいいように思います。その理由は4つあります。

この節は、新共同訳で2回「人」という訳が出てきます。ところが、この2つの原語は違います。「人を塵に返らせる」という部分はエノーシュです。「人の子よ」という呼びかけの「人」はアダムです。隣接する原語が違うのだから、訳は同じにしてしまわないで、変えたほうがいいのではないかと思います。2つの理由としては、「人」と訳すよりも、「アダム」にしたほうが原語に近い、というより原語と同じことがあります。3つ目は、ダニエル書や新約聖書では「人の子」は特別な意味になるので、それとの混同ができるだけ避けた方がよい。そして4つ目は、ここが大事なのですが、この箇所は創世記の3章19節、アダムが禁断の木の実を食べたので神様からお叱りをうける、そのお叱りの言葉と関連しています。創世記3章19節「お前は顔に汗を流してパンを得る／土に返るときまで。／お前がそこから取られた土に。／塵にすぎないお前は塵に返る。」——この言葉と関連しています。聖書では聖書の他の箇所を思い起こさせることがとても大事です。聖書というのは、聖書の中の他の書、他の箇所と連想や関連によって網の目のようにネットワークが張られている世界とも言えます。ですから、詩編のこの箇所が創世記3章19節と関連していることを読者により印象付けるために、ここは「アダム」と訳した方がいいのです。

皆様はどう思われますか？

私たちは翻訳の様々な過程で、このようなことをいろいろ考えながら訳語を検討しております。その一例をご紹介させていただきました。



■このページに関するお問合せは

一般財団法人 日本聖書協会 翻訳部

〒 104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

TEL.03-3567-1989 FAX.03-3567-4436 E-mail. [transl@bible.or.jp](mailto:transl@bible.or.jp)

ページの先頭に戻る ▲

▶ [ご利用規約](#) ▶ [プライバシーの保護について](#) ▶ [このサイトに関するお問い合わせ](#)

1997-2021 © Japan Bible Society, Allrights reserved. 当サイトに掲載されている情報の無断転載を禁止します。

ホーム

聖書を読む

聖書を知る

聖書のお求め

献金する

聖書協会とは

聖書図書館

ホームページ &gt; 聖書を知る &gt; 日本聖書協会 講演会 聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために— 09

## 聖書を知る



聖書とは

聖書翻訳の研究

聖書ができるまで

聖書翻訳の歴史

口語訳、新共同訳、聖書協会  
共同訳について

新翻訳事業について

## 新翻訳事業について

日本聖書協会 講演会  
聖書を耕す —聖書との新たな出会いのために—

石川 立氏

2014年5月15日

於・TKP大手町カンファレンスセンター

## IV. 最後に

さて、創世記3章には、今の引用箇所のすぐあと、23節に「土を耕す」という記事があります。「主なる神は、彼をエデンの園から追い出し、彼に、自分がそこから取られた土を耕させることにされた。」

「耕す」——今日の講演の主題とここで関連します。アダムに課せられた仕事・人類最初の仕事、それは土を耕すことでした。

聖書翻訳は耕すことだと私は申しました。私たちの翻訳の仕事は、創造物語のアダムの仕事に重なります。

「耕す」と訳されている言葉(アーバド)は、直訳すれば「仕える」です。アダムの仕事・人類最初の仕事は、「土に仕える」ということでした。

私たちの聖書を耕す仕事は、人類最初の仕事につながります。聖書の翻訳——それは、聖書に仕える、ということにほかなりません。

今回の聖書翻訳事業はこれからも、まだ、「山あり谷あり」です。しかし、とにかく、神様に導かれながら完成に向かって進んでおります。

この事業を皆様のお祈りの内に加えていただければ幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

前のページへ

1 2 3 4 5 6 7 8 9

次のページへ